

稲作情報 No.4

平成28年7月12日
南魚沼地域農業振興協議会
南魚沼農業普及指導センター



～草丈長く、葉色濃い傾向～ 穂肥は遅め控えめに！

【7月11日現在の生育状況】

- コシヒカリの生育は、指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「やや多」、葉色は「やや濃い」となっています。
- 田植え以降の気温が高く推移したことから、平年に比べ**出穂期は2日程度早い**と見込まれます。

【今後の管理】

適切な穂肥と水管理で、籾数過剰を防ぎましょう

- 今年葉色が濃く、茎数が多い場合は、1回目の穂肥を遅め控えめ、または**施用を止めましょう。**
- 2回目の穂肥は、後期栄養確保のため、必ず適量(N成分で1.2～1.5kg/10a)を施用しましょう。
- 出穂後の水管理は飽水管理を行い、かけ流しは絶対にやめましょう。

1 7月11日現在の生育状況 (管内調査地点の平均、〈〉内数値は指標値比)

草丈：やや長 (68cm 〈105%〉) 茎数：やや多 (470本/m² 〈106%〉)
葉色：やや濃 (SPAD値37.8〈+1.8〉) 葉数：多 (11.3葉 〈+0.9〉)

2 穂肥施用時期のめやす

表1 田植日別コシヒカリ幼穂形成期及び出穂期の予想(7月10日現在)

田植日	幼穂形成期	出穂期 予想	穂肥施用時期のめやす	
			1回目(出穂15～18日前)	2回目(出穂10日前)
5月15日	7月9日	8月1日	7月17日～14日	7月22日
5月20日	7月13日	8月5日	7月21日～18日	7月26日
5月25日	7月17日	8月9日	7月25日～22日	7月30日
5月31日	7月23日	8月15日	7月31日～28日	8月5日

※出穂時期は、ほ場条件、標高差、気温等で変動しますので、それぞれ幼穂を確認しましょう。
※湯沢地域における幼穂形成期や出穂期は、上記の表から4日程度遅くなる見込みです。

3 穂肥の施用

(1) 1回目の穂肥

- コシヒカリの1回目の穂肥は、必ず幼穂形成期(出穂23日前)に草丈・茎数・葉色を調べ、生育診断を行い、時期と量を判断し実施しましょう。
- 1回目の穂肥は、幼穂を確認し、出穂15～18日前に窒素成分で1.0～1.2kg/10aを基本として施用しましょう。
- なお、穂肥の施用に当たっては、草丈が長く葉色が濃い場合は施用を中止するか時期を遅めにするなど、稲の生育量に応じて、時期と量を加減しましょう。

参考1：穂肥施用時期での診断（幼穂長0.2cm）

1回目穂肥施用時の生育量のめやす（60株/坪田植えの場合）

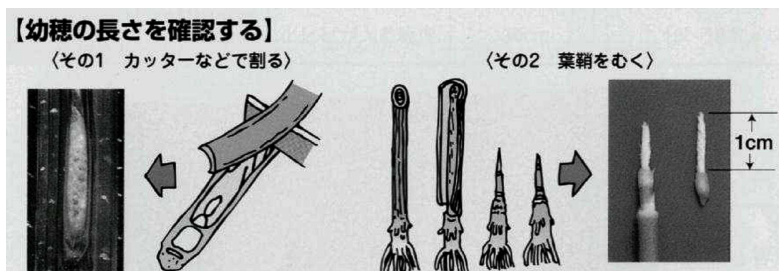
時期	草丈	茎数	葉色
出穂 20日前	75cm以下	400～450本/m ² (22～25本/株)	3.0～3.5（葉色板、群落） 32～35（葉緑素計、SPAD値）

◎上記を上回る場合は、遅め控えめまたは穂肥の中止を検討しましょう

○有機質入り穂肥の場合は、肥効が現れるまでに時間を要するものや、有機物の種類によって肥料効果が異なるため、施用時期や施用量を検討しましょう。

表2 幼穂長と出穂前日数の関係

出穂前日数	幼穂長 (cm)
24日	0.1
20日	0.2
18日	0.5～1.0
12日	4.0～6.0



*ほ場内の平均的な株から最も長い茎を抜き取り測定する。

図1 幼穂長の確認方法

参考2：2回目穂肥時期の診断

2回目穂肥のめやすは、穂ばらみの状況と、止葉と1枚下の葉の付け根部分(葉耳)が重なった時期(葉耳間長ゼロ)のとき、このような茎が50%以上となった時期が出穂10日前



図2 葉耳間長による出穂前日数

(2) 2回目の穂肥

- 後期栄養の確保のため、出穂10日前に基準量(窒素成分1.2～1.5kg/10a)を確実に施用しましょう。
- 1回目の穂肥を施用しなかったり、施用しても葉色が低下している場合は、確実に窒素成分で1.5kg/10aを施用しましょう。
- 登熟期間の高温が予想され、1、2回目の穂肥を施用しても葉色低下が懸念される場合は、出穂3日前までに窒素成分で1kg/10aの3回目の穂肥を検討しましょう。その際窒素が残らないように化成肥料を施用しましょう。

(3) 基肥一発肥料での穂肥

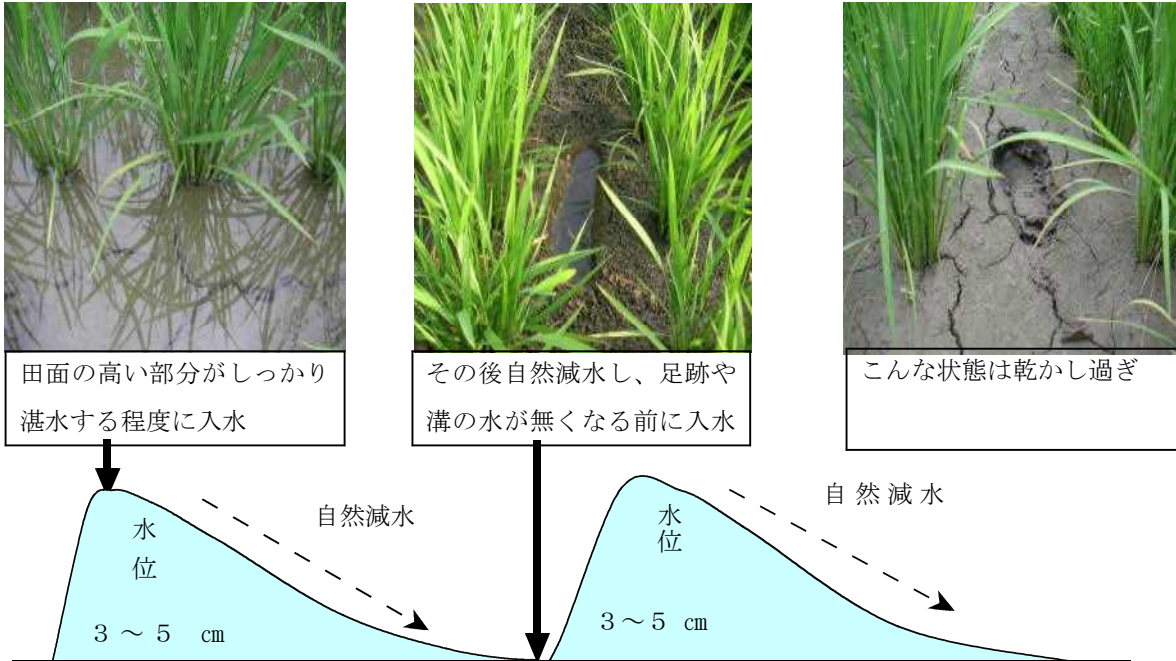
- 基肥一発肥料を使っているほ場で、葉色が薄い場合は生育診断を行い、栄養凋落の恐れがある場合は穂肥を施用しましょう。

4 水管理

○中干し終了後は浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行し、うわ根の発生促進や根の健全化、地耐力の維持に努めましょう。

※飽水管理とは： 入水後、自然減水で田面に水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が見られるようになったら灌水する水管理。

飽水管理のイメージ



※出穂後25日以降も、可能な限り飽水管理を継続しましょう(胴割れ粒等発生防止)。

※節水のため降雨を活用しましょう。またかけ流しは下流の農家に迷惑がかかるほか、大切な資源の無駄遣いになるため止めましょう。

5 病虫害対策

※ 薬剤防除を行う場合は必ず登録内容を確認し、正しく使いましょう。

(1) いもち病

○ コシヒカリBLでの防除対応は以下に従って実施しましょう。

いもち病発生状況	防除対応
① 予防粒剤を使用せず、葉いもちが発生した	直ちに防除を実施
② 予防粒剤をしたほ場で葉いもちが発生した	上位葉に進展した場合に防除を実施
③ 葉いもちが上位葉に進展した場合の穂いもち 防除対応	出穂直前～出穂期に粉剤・液剤を用いて防除を実施

○ コシヒカリBL以外の品種は、**病斑を確認したら直ちに防除を行いましょ。**

○ いもち病の発生を確認したら、普及指導センターまたはJAへ連絡ください。

(2) 斑点米カメムシ類 ～斑点米カメムシ類の多発生に注意～

○ 県内全域で斑点米カメムシ類の発生程度は平年比で**多い**状況(注意報発令中)。

○ 斑点米カメムシ類の生息密度を抑えるためには餌となるイネ科雑草を出穂させないようにするため、**6月下旬以降、出穂～成熟期近くにかけて3～4週ごとに畦畔や水田に隣接する休耕田等の雑草の刈取りを実施**しましょう。

○ 防除効果を高めるため、穂揃い期(イネの出穂期の3日後頃)の殺虫剤による防除もあわせて実施しましょう。

南魚沼地域振興局農林振興部普及課 作物担当
電話 772-3337/FAX 772-2612